

学校管理下における体育・スポーツ的活動の事故防止策に関する研究

—教員によるヒヤリ・ハット体験から—

三宅 仁¹ 高野 千春² 小林 幸次³

I. 緒言

1961年に制定されたスポーツ振興法は、「国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活の形成に寄与すること」を第一の目的としていた。これは、スポーツの振興を通じた人間の発達と国民生活の形成がスポーツ政策の基本理念として定められている。また、2011年に制定されたスポーツ基本法では、「国民の心身の健全な発達，明るく豊かな国民生活の形成」と共に、「活力ある社会の実現及び国際社会の調和のある発展に寄与する」を第一の目的としている（菊，2011）。そのスポーツ基本法の基本理念の中で、「スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが，体力を向上させ，公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成に大きな影響を及ぼすものであり，国民の生涯にわたる健全な心と身体を培い，豊かな人間性を育む基礎となるものであるとの認識の下に，学校，スポーツ団体，家庭及び地域における活動の相互の連携を図りながら，推進されなければならない」として，青少年の体育・スポーツ的活動に対する基本理念を明示している（菅原，2011）。そのため，今日では，体育・スポーツ的活動は学校体育のみならず，広く日本社会の中に取り入れられ実施されている。

このスポーツ振興法とスポーツ基本法には，それぞれ「スポーツの事故防止」について記述されているが，大きな違いもみられる。一つ目は，スポーツ振興法 16 条は「スポーツ事故の防止」について限定しているが，スポーツ基本法 14 条は「スポーツ事故，その他スポーツによって生じる外傷，障害等の防止及びこれらの軽減」とし，スポーツをする者以外にもふりかかる災害も対象とする必要があることなども視野に入れた内容となっている（望月，2011）。二つ目に，スポーツ基本法 14 条はスポーツ事故等による外傷等の「防止」のみならず「軽減」資する措置を講じることとされている。これは，事故等の防止措置に加えて，事故等が発生しても被害を軽減する措置をも要求するものであり，この点でもスポーツ振興法 16 条よりも広い措置が要請されていると解される。

しかしながら，スポーツ基本法によってより明確に「スポーツの事故防止」が規定されたにもかかわらず，学校管理下における事故が後を絶たない。独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害給付状況（2009 年度）によると，学校（小学校，中学校，高等学校，高等専門学校，特別支援学校，幼稚園，保育所）でスポーツ行為に関した死亡の発生件数は 27 件であった。

¹ 平成国際大学准教授

² 平成国際大学准教授

³ 平成国際大学専任講師

さらに、公益財団法人スポーツ安全協会の「平成 21 年度スポーツ安全保険の加入者及び各種事故の統計データによると、同保険の加入者 989 万 7,483 人（2011 年 8 月時点）に対する傷害保険の支払い件数は 18 万 8,565 件であり、支払い対象となる事故の割合は 1.91%であり、その中で死亡事故は 19 件発生している。

ハインリッヒの法則によれば、1つの重大事故の陰には 29 の軽微な事故、300 ものヒヤリとしたりハットしたりする事故があるとされている。重大事故においては、日本スポーツ振興センターの災害給付状況やスポーツ安全協会の傷害保険の支払い件数からその内容を窺うことができるが、軽微な事故やヒヤリとしたりハットしたりした事例の調査をした研究は少ない。

そこで本研究では、学校管理下における体育・スポーツ的活動時における軽微な事故やヒヤリとした事故を調査し明らかにすることで、体育・スポーツ的活動時の事故防止の一助とすることを目的とする。

II. 方法

教員免許更新講習（表 1）に参加した小学校教諭，中学校教諭，高等学校教諭および教員経験者 116 名に学校管理下のヒヤリ・ハット体験のアンケート調査（記述式）を実施した（表 2）。ただし、本研究ではこのアンケート調査の中から体育・スポーツ活動的なヒヤリ・ハット体験を抽出し、研究の対象とした。

III. 結果

アンケート調査の結果から、81 件ものヒヤリ・ハット体験の報告があった（表 3）。学校別における事例件数では、小学校が 81 件中 35 件（43.2%）、中学校・高等学校が 81 件中 31 件（38.3%）、特別支援学校が 81 件中 6 件（7.4%）、保育園・幼稚園が 81 件中 9 件（11.1%）であった（図 1）。発生時期の調査結果では、4 月から 8 月にかけての間に 81 件中 30 件（37.0%）のヒヤリ・ハット体験を経験していた（図 2）。また、時間帯別事例件数を調査したところ、授業中が 81 件中 32 件（39.5%）、部活動中が 81 件中 17 件（20.9%）、休み時間中が 81 件中 9 件（11.1%）、校外学習中が 81 件中 8 件（9.9%）、運動会（予行も含む）が 81 件中 3 件（3.7%）、大会・合宿中、清掃中、SHR 中がそれぞれ 81 件中 2 件（2.5%）、下校中が 81 件中 1 件（1.2%）であった（図 3）。スポーツ的活動時に発生した 44 件の事例から種目別に多い事例から調査したところ、水泳が 44 件中 7 件（15.9%）、跳び箱が 44 件中 5 件（11.4%）、サッカーが 44 件中 4 件（9.1%）、運動会（予行含）・鉄棒がそれぞれ 44 件中 3 件（6.8%）、ブランコ・組体操・ソフトテニス・バドミントン・野球・長距離・野球がそれぞれ 44 件中 2 件（4.5%）、その他の種目においては 44 件中 8 件（18.1%）発生していた（図 4）。

そして重大事故につながる可能性の高い事故として、暑さによる熱中症の事例は 81 件中 12 件（14.9%）であり、急性硬膜下血腫につながる可能性が高い頭部損傷の事例が 81

件中 25 件 (30.9%) となっていた (図 5)。

IV. 考察

本研究の調査結果から、まず明らかになったことは学校管理下におけるヒヤリ・ハット事例の約半数は体育・スポーツ的活動時に発生していることである。生徒の学校生活上の安心・安全という観点から鑑みれば、早急な対策が必要であることは自明の理であろう。事故対策の第一歩は先例に学ぶことであり、関係機関は重大事故には至らないヒヤリ・ハット事例を集積し、その情報を教員間で共有することが重要である。

次に発生時期の調査結果から明らかになったことは、7 月に最も多い割合でヒヤリ・ハット事例が発生していた。この理由としては、種目別の発生件数で最も多い件数であった水泳の実施時期に関係していることが推察される。過去に学校管理下における水泳での重大事故が発生したことから、文部省体育局長や文部科学省スポーツ・青少年局長より安全管理についての通達がなされていることから、水泳の実施には特段の配慮が求められよう (菊, 2011)。

また、7 月にヒヤリ・ハット事例が多い理由としては、熱中症が挙げられる。調査結果によれば、体育・スポーツ的活動時のヒヤリ・ハット事例の中で、熱中症の事例は 44 件中 12 件 (27.3%) という高い割合で発生していた。一步間違えれば死に至る重大事故につながる恐れがあるだけに、教員自身が自ら熱中症対策を学ぶと共に、学校単位での研修会や研究会の開催を行うべきである。

さらに、本研究の調査結果から明らかになったことは、頭部におけるヒヤリ・ハット事例が 44 件中 25 件 (56.8%) も発生していた点である。幸いにも重大事故になっていないケースであったが、頭部外傷は急性硬膜下血腫による高次脳機能障害や死亡事例に至る可能性が高く、非常に危険な状況である。重大事故につながるおそれのある暑さによる熱中症の事例や脳震盪の事例が報告されていたことは、今後の指導上十分に留意する必要がある。

藤井 (2007) は、「事故が発生した後の『責任論』よりも、事故の予防の方が大切である」と述べている。いかに学校事故の先例 (判例) を参考にして、今後の事故の予防の多為の参考資料を手に入れようとするという発想で、常日頃から事故の予防の対策に取り組むかが重要である。学校における事故防止の最後の砦は、「教員自身」であることを肝に銘じてその職責を果たさなければならない。

V. まとめ

本研究の結果、以下の知見が得られた。

1. 学校別における事例件数では、小学校が 81 件中 35 件 (43.2%)、中学校・高等学校が 81 件中 31 件 (38.3%)、特別支援学校が 81 件中 6 件 (7.4%)、保育園・幼稚園が 81 件中 9 件 (11.1%) であった。

2. 発生時期の調査結果では、5月から8月にかけての間に81件中27件(33.3%)のヒヤリ・ハット体験を経験していた。
3. 時間帯別事例件数を調査したところ、授業中が81件中32件(39.5%)、部活動中が81件中17件(20.9%)、休み時間中が81件中9件(11.1%)、校外学習中が81件中8件(9.9%)、運動会(予行も含む)が81件中3件(3.7%)、大会・合宿中、清掃中、SHR中がそれぞれ81件中2件(2.5%)、下校中が81件中1件(1.2%)であった。
4. スポーツ的活動時に発生した44件の事例から種目別に事例から調査したところ、水泳が44件中7件(15.9%)、跳び箱が44件中5件(11.4%)、サッカーが44件中4件(9.1%)、運動会(予行含)・鉄棒がそれぞれ44件中3件(6.8%)、ブランコ・組体操・ソフトテニス・バドミントン・野球・長距離・野球がそれぞれ44件中2件(4.5%)、その他の種目においては44件中8件(18.1%)発生していた。
5. 重大事故につながる可能性の高い事故として、暑さによる熱中症の事例は81件中12件(14.9%)であり、急性硬膜下血腫につながる可能性が高い頭部損傷の事例が81件中25件(30.9%)となっていた。
6. 本研究の調査結果から、学校管理下におけるヒヤリ・ハット事例の約半数は体育・スポーツ的活動時に発生していた。関係機関は重大事故には至らないヒヤリ・ハット事例を集積し、その情報を教員間で共有することが重要である。
7. 学校事故の先例(判例)を参考にして、今後の事故の予防の多為の参考資料を手に入れようとするという発想で、常日頃から事故の予防の対策に取り組むことが重要である。

【引用・参考文献】

- 菊幸一(2011)スポーツ政策論. 菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦編. 成文堂: 東京, pp35 - 40.
- 菅原哲郎(2011)スポーツ権確立に向けて. 日本スポーツ法学会編. スポーツ基本法, 成文堂: 東京, pp.1 - 3.
- 望月浩一郎(2011)詳細スポーツ基本法. 望月浩一郎・浦川道太郎・大島卓生・白井久明・菅原哲郎・鈴木知幸・松本泰介・森浩寿・森川貞夫編. 成文堂: 東京, pp238 - 246.
- 菊幸一(2011)スポーツ政策論. 菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦編. 成文堂: 東京, pp451 - 454.
- 藤井俊夫(2007)学校と法. 成文堂: 東京, pp72 - 83.

表1 教員免許更新講習の概要

実施年月日	場所	小学 校	中学 校	高等 学校	特別支 援学校	幼稚園 保育園	その他
2016年8月9日	平成国際大学	20名	16名	8名	6名	12名	7名
2017年8月2日	平成国際大学	24名	5名	7名	5名	2名	4名

表2 アンケートの調査内容

質問項目1	質問項目2	質問項目3
体験した時期及び時間帯	授業または部活動	状況等

表3 ヒヤリ・ハットの体験事例

No	発生時期等	授業 or 部活動	発生状況
1	5月	授業	体育の跳び箱の授業時に発生。小2の男子が走って飛ばそうとした時にADHDの生徒が横切つてぶつかりそうになった。跳び箱の補助に入っていた私が、生徒を止めたことで事故にはつながらなかった。
2	14時ごろ	預かり保育時	私が子どもの要望でブランコを高くする為に、数人の子どもの背中を押していた時に発生。ブランコが高い位置になった時に、他の児童が「〇〇ちゃんバイバイ」の声かけに、ブランコに乗っていた児童が片手を離して手を振ったため、ブランコから落下。幸いに私が側にいたため、落ちた児童が地面に着く前に体を支えたため、怪我無く済んだ。
3	夏休み 13時頃	バレーボール 大会中	バレーボールの試合後、突然の痙攣を起こし、私自身は「熱中症」と判断したが、保護者が「根性がない」との理由で受け入れないため、保護者を諭し、救急車で病院へ搬送した。病院で熱中症と判断され、点滴の処置を受ける。
4	夏休み 23時頃	神戸製鉄で合 宿中	もともと喘息の症状を持つ生徒が制止したにもかかわらず、「サウナ風呂」に入室。呼吸困難になり、救急車で病院へ搬送される。
5		運動会の予行 演習中	組体操の練習中に発生。小人数の学校で生徒が休んでしまった。そのためよく代理で入ってもらっている先生に手伝ってもらったが、4人技が崩れ生徒が落下。大事には至らなかったが、非常に危険だった。手伝ってもらっている先生に構造の詳細な説明をしていなかったことが原因。
6	2016年7月 16時頃	保育中 園庭にて 3歳児クラス 男児	滑り台で児童を一人ずつ押していた際に、他の滑り台で発生。音がしたため、見たところ児童が滑り台から落下していた。人工芝が敷いてあったため、大事に至らず。目の届くところにしておくべきであった。
7		部活動	ソフトボールの練習中、フライキャッチができず、目にボールが当たる。大事に至らず。
8		部活動	ソフトテニス部の練習中。球出し時に、相手が近い距離から打ったボールが目当たる。大事に至らず。

9		体育の授業 器械運動 跳び箱 マット	倒立系、回転系の技の練習時に発生。補助を付けるよう指示するが、一人で挑戦したい生徒がいて、回転がしっかりできなかつたり、バランスを崩したりして床に体を強打する。大事には至らず。
10	6月下旬 10時頃	運動会予行練習中 校庭	湿度が70%を超えている状況下で発生。体調を崩した生徒がテント下にいたものの、体温が38℃を超えてしまったため、すぐに教室に連れて行き、水分補給とアイスノンで冷やす。熱が下がらなかったため、保護者に迎えに来てもらう。15時頃に生徒宅に電話し、状況確認を行った。次の日には熱が下がったため、大事には至らず。
11	8月 12時頃	部活動 女子バトミントン部	バトミントンの練習中。本人は寝不足と言っていた。部活動は普段通り水分補給をしながら行っていた。部活が終わりの際、他の生徒より早く練習が終わり、うつぶせになって寝ていた（寝ていると思った）。約10分後、練習が終わり集合を掛けたら意識がほとんどない状況であった。直ちに救急車を呼び、病院へ搬送した結果、軽度の熱中症であった。救急車が来るまでは、風を当てる・脇を冷やすなどの応急処置を行った。
12	土曜日 午後	部活動 野球部	バッティングの練習中、ピッチャーライナーが頭部に当たる（ヘルメット着用）。日陰で横に寝かせアイシング（部長が付き添い）。20分立っても気分が悪いとのことで、保護者に来てもらい病院へ連れて行ってもらう。
13	15年前	体育の授業	跳び箱の指導で、台上前転している時に、跳び箱から落下。跳び箱の周りにはマットを敷いていたため、頭を打つこともなかった。中学年で跳び箱の高さも3段程度であり、高くはないが打ちどころが悪いと怪我につながるためヒヤリとした。落下後、大事をとって保健室で休ませ放課後に保護者に連絡した。
14	6年前	子ども体操教室	鉄棒で逆上がりの練習中、手が滑り落下。室内練習で下にマットも用意されており、怪我はなかったがしばらく休んでまた参加した。帰宅後、指導者からその後の体調を心配する連絡があった。
15	6月 午前中	生活科2年 学区探検時	学区内の公園や神社を巡っていた時、休憩していた公園で男児が「ふらふらする」と言ったため、熱中症を疑い校長に車で迎えに来てもらった。

16		授業中	低融金属を型に流し込んでペーパーウェイトを作成するという授業時に発生。本来、型は流し込み用の口以外は密閉するのに半分しかふたをしていない状態で金属を流し込み冷却用の水に入れてしまった。金属は爆発し、周りに飛び散り生徒の服についたりなどしたが、怪我をした生徒はいなかった。
17	放課後	S HR後の清掃中	生徒同士がふざけてプロレスの技を掛け合っていた。その中の一人がよろけて教室の後ろのロッカーに後頭部をぶつけて気絶した。救急車で搬送した病院で意識を回復した。検査の結果、特に異常なしとのことであった（脳震盪）。
18	17 時頃	部活動	サッカーの練習中、シュートしたボールがゴールから外れ、後方で活動中のテニス部の生徒の目に当たる。病院に運んだが、大事に至らず。狭い校庭の中で、いくつもの部が同時に活動している状況がその原因の一つと考えられる。
19	10 時頃	授業	長距離走の授業中、生徒の一人が約 3 km 走り、ゴールまで残り 200m の地点で倒れ、呼吸困難と意識が薄れた状態となった。直ちに携帯電話で養護教諭に連絡し、車で保健室に運んだ。その後、脈がなくなり救急搬送した。後に回復したが、ある病気を持っていたことが判明した。
20	高校 1 年生 1 学期 休日の正午頃	部活動 卓球	土曜日の午前練習の終了間際、1 年生の男子生徒が、頭が痛く吐き気がする等の熱中症と思われる症状を訴えてきた。そのため、その生徒をクーラーの効いた体育教官室で休ませようと移動したが、直後に嘔吐してしまった。トイレでも数回嘔吐していたようで、内容物はなかった。教官室で横にして水分を補給させ、保冷剤で脇の下や首を冷やし、安静にさせた。発汗もすぐく体温も上昇していた。その場にいた体育の教員と対応し、回復を待つ保護者に連絡を入れた後、顧問の車で自宅まで送った。
21	夏 午前中	部活動	夏休みの午前中の部活動を実施。水分補給のため、休憩を 20～30 分ごとに取り、練習を終えた。夕方一人の保護者から連絡があり、子どもが熱中症で入院したとのこと。病院に駆けつけてみると点滴中で意識はしっかりしていた。話をすると「スポーツドリンクを持参

			するように言われていたが、自分は好きではないのでお茶のみだった」とのこと。その後、苦手でも必ずいずれかの水筒はスポーツドリンクにすることを徹底した。
22	7月下旬 2校時	体育科授業(4年生)	水泳学習2回目。気温が低めで、水温の方が高かったためなるべく自ら出さない方法で授業を実施。授業後、一人の子が寒いと訴え、保健室へ行ったのを見て男子数名が次々と保健室へ来る。養護教諭不在のため、職員室の先生方と共に対応。部屋を暖め、体をこすったり温かいものを食べさせてゆったりして30分位で正常な状況に戻った。
23		体育の授業	小6の男子。跳び箱運動のヘッドスプリングの練習時に首を捻挫。ただ頭を着いて倒立した状態で前に倒れようとした。「スプリング」の意味を理解していなかった。
24	放課後	帰りの会の前	小4男子。トイレの中で待っていると小5の男子が脅かしてきたので慌てて逃げ、そのはずみで額をコンクリートの壁に強打した。赤いだけで腫れていなかったため保健室へは行かせず、そのまま学童に行かせた。その後、腫れてこぶになった。
25	2010年 キャンプ ファイヤー後 の部屋にて	林間学校	布団の上で寝た状態で、光るライトを曲げ伸ばししていたところ、ライトが割れて顔に液体やガラスの破片がかかってしまった。目を洗浄したのち、救急車で病院へ搬送。
26	2015年 校庭 10時頃	体育の授業	転がったボールを追いかけて鉄棒をくぐろうとした時、鉄棒に頭をぶつけて頭の皮膚を切る怪我が発生。体育帽子を被っていたため、感染なし。体育帽子の必要性を強く感じた。
27	1月 10時20分	体育の授業	体育館。サッカーのパスの練習中、ボールを蹴り損ねてボールの上に乗ってしまい転倒する。頭を軽く打ってしまったので少し休ませ様子を見る。痛がっていたため、保健室に連れて行き患部を冷やして休ませた。
28	9月 10時35分	休み時間	体育館でドッジボールをしている中(5・6年)2年生の児童が鬼ごっこをしながらコートに入ってしまうボールが顔面にあたり転倒した。驚いて大泣きしていたが、大事には至らず。

29		体育の授業	サッカーでのボール蹴りの練習で、ボールにのってしまい、転倒した（尻もち）。大けがには至らず。
30		林間学校 小学校5年生	群馬・日光白根山への登山後の下山途中、児童が足を滑らせ山道から滑り落ちた。山岳ガイドの方が素早く駆けつけて無事であった。
31	運動会前 9月	保育 体育指導	年長組の運動会における組体操のピラミッド3段タワーで、一番上に乗っている子が立った後、落下した。一騎に一人の補助が付いていたので事なきを得た。
32	平成26年5月	国語の授業	ひらがなの練習中、先生が文字を教えている際、子どもたちには手を膝の上に置いているように声かけしていたが、一人の子がノートや鉛筆をいじり、ノートを持ち上げた時、鉛筆が飛び近くにいた子どもにあたりそうになった。
33		戸外遊び中	ブランコで遊んでいる中、勢いよく漕ごうとしていたらお尻がブランコから離れ、落ちそうになったがブランコの鎖をしっかり握っていたので落ちることはなかった。
34	13時頃	遊び時間中	鉄棒をしていて、前回りを回った後に手を離してしまった。大事には至らず。
35	13時頃	遊び時間中	鉄棒で前回りをして降りる時、他の子が近づいて来て、蹴られそうになった。
36	2006年夏 9時40分	朝の活動中	勢いよく立とうとした子が、机に手を着いた際、机が飛び上がってしまった。
37		部活動	ウェイトリフティングの練習中、前の生徒が後方に転び、後ろの生徒がバーベルを落とすタイミングが一緒になってしまう。非常に危険な状況であった。
38	降園後の預かり保育中	戸外遊び中	園児が出入り口を開け、園外に出てしまった。2,3歩出たところで、保育士が気付いたが車も往来する道路だったので非常に危険だった。
39	7月 午前中	プール遊びの活動中	浅いプールだったが（膝下ほど）、ワニ歩きをしている子どもの上におぶさる様に乗ってしまった。
40	5月・休日	部活動 中学校 野球部の練習中	5か所程度、3人1組で横一列の状態正面ライナー打ちの練習中、慌てて横にボールを取りに行こうとした（周囲の指導者に止められてその場で立ち止まって指導を受けた）。
41	7月	体育の授業中	昔は体育館に登りトレーニング用のロープが設置してあったため、他の生徒が登り始めていた。すぐに安全

			に降ろして指導した。
42	4月下旬 13時半頃	授業中	午後の授業中「学級活動」で発生。この日進級して初めて校庭で遊具などを使って遊ぶ（担任3人・児童8人）。一人の男子の姿が見えなくなり、名前を呼びながら捜す（担任以外、3・4人の先生方も一緒に捜索）。トイレで手を洗っていたようで（こだわりあり）、女子トイレから「はい」と返事をしながら出てきた。
43	午前中	体育の授業	小学2年の男子児童が、跳び箱の開脚跳びに挑戦して両手が滑り、前のめりになり両手・顔面の順に落下。「痛い痛い」と泣き叫ぶ。今まで跳べたことのない生徒であった。
44	午前中	夏休み中のプール指導中	プール指導中は楽しそうにしていたが、下校後に保護者から「子どもがプールで溺れたと言っている。」と学校に電話が来る。児童が平気で楽しそうな表情でも、水深等を厳密に守らせる必要があったと感じた。
45	10年ほど前 高校2年生	修学旅行中 早朝5時頃 宿舎の周りをランニング中 参加者約70名 監督教員8人	宿舎の周りを各部ごとにまとまってランニング中（当日の天候はあまり良くなく、薄暗い状況であった）、狭い山道から足を踏み外し、山道から5mほど転げ落ちた。幸い打撲だけで済んだ。すぐに保護者に連絡し、翌日の朝練は中止した。
46	4年前 13時半頃	部活動（バドミントン）	当時の気温は34℃で練習は12時にスタートした。一人の生徒が練習中に突然意識を失い倒れた。幸いタンカで保健室に運び休ませたところ、意識を回復した。保護者に至急連絡を取り、迎えに来てもらった。
47	3月下旬	部活動	ラグビーの練習中、生徒の一人が頭を強打。意識はあるがプレーの前後の記憶がなかったため、車で病院に搬送。問診で「今日は何日か・何月か」の問診に答えられず、衝撃の強さを感じた。点滴を打ち、一晩様子をみた結果、ほぼ正常に戻った。
48	8月下旬 23時過ぎ	部活動合宿中	小学校6年の生徒が、矯正用の金具を外さずに寝てしまい、飲み込んでしまったため、咽頭部に引っ掛けてしまった。山の中の宿舎だったため、救急車到着まで1時間以上かかり、到着までかなり心配した。その間、保護者と電話連絡で対応する。生徒はずっと痛がって泣いていたが、病院で麻酔処置後、矯正具を外し大事

			に至らず。
49	午前中	授業	肢体不自由児特別支援学校で、応援で入ったクラスで発生。座位が不安定な児童から離れてしまい転倒し、他の児童の頭と接触した。翌日、朝会でヒヤリ・ハット報告をして、全校で共有した。
50	午前中	校外学習中	肢体不自由児特別支援学校で発生。状況が落ち着いているように思えたが、点呼をするとその場から脱走してしまい、探索ということが起こった。
51	夏季	授業（水泳）	小4女子。知的障害あり。流れるプールで楽しそうにしていた。私の目の前を通り過ぎた時、「あれ」と思った時にはかなり流されていた。近くにいたしっかりとした女子が助けてくれたため、事なきを得た。もし、気づかなかつたり、もし助けに行ったら子が引っ張られたりしたらと考えたら、後から非常に怖くなった。
52	日中	授業（図工）	電気系のノコギリを使っていて、使い方にも慣れてきたことだったが、ふと見たら指が刃の前にありヒヤリとした。幸い爪を切っただけで済んだが、作ることに夢中になってしまっていて本人も驚いている様子だった。
53		授業（体育）	馬飛びをしていた際に馬をしていた児童が急に肘を曲げ、態勢を低くしたため、飛ぶ生徒がバランスを崩し、床に歯を打ち歯が欠けてしまった。
54		体育の授業（プール）	プール指導の際、ビーチサイドに上がり休憩していた際、一人の生徒が気を失って倒れたため、救急車で搬送した。検査で脳の異常が原因だと分かったが、水の中で発作が起きていたらと思うと恐ろしい体験だった。
55		下校時 校門付近	雨上がりで校門のところに大きな水たまりができていた。その水たまりを避けて勢いをつけて跳ぼうとした時、着地が上手くできずに顔面から転んだ。鼻の周りに擦り傷ができ、唇を切り前歯を折ってしまった。保健室で手当の後、保護者に歯医者に連れて行ってもらった。私は出張でいなかったため、出張先より戻ったのちに教頭と共に謝罪に行った。校門の水たまりを取り除くなど安全配慮が必要だったのではと思った。
56	11時半	体育の授業（水泳）	風邪気味で見学をしていた。友達の付き添いで保健室へ行ったり来たりした後、プールサイドのテントで10

			分ぐらい見学していた。教室に戻るときに顔が赤くなってしまっていたので、水分を取らせ涼しい教室で休むうちに顔の赤みが取れてきたのでほっとした。
57	7月下旬 11時頃	体育の授業 (水泳)	生徒は水泳の授業が始まる少し前からプールサイドで、待っていた。この日のプールは、久々の晴天で日なたで待つ時間が10分ほどあってから入水。授業時間が半分過ぎたところで疲れたと言ってプールから出てきた。普段なら時間が過ぎても水の中にいるような児童なのでおかしいなと感じた。次第に顔色が悪くなったため、教室で着替えさせ、水分を十分に摂らせると少しずつ回復した。熱中症と思われ、プールにも水筒を持たせるべきだったと反省した。
58	5月 10時50分 ごろ	休み時間	特別支援学級在籍の児童で、協力学級の担任への連絡メモを渡しに行くように話し、1階へ。戻って来るのが遅いと感じ、見に行くとき階段で上級生と向かい合って口げんかになっていた。もし、手足が出る喧嘩にエスカレートしていたら階段から落ちる可能性があった。
59	夏季休業中 午前中	部活動(女子 バスケット 部)	練習途中に集合を掛け、指示をしている最中に2年生の生徒が何の予兆もなく後方へ倒れ、全身痙攣を発症。頭部を打った可能性があり、119番通報。病院への搬送後、点滴診察の結果、熱中症との診断。大事に至らず。その後、本人からの話で朝食を欠食して練習に参加していたことが判明。体調管理が不十分であったと改めて反省する機会となった。
60	2017年6月	掃除終了後	小2男子。掃除中に雑巾を校舎と校舎をつなぐ通路下に落とした。次の日、その雑巾を仲間に見せるため二人の男子を誘い、廊下をダッシュして通路へ走っていた。その行動を変に思い、様子を見に廊下に出ると通路の手すりを鉄棒のようにして前回りをするようにして下をのぞき込んでいた。すぐに駆け付け止めさせ、厳しく指導した。
61	2・3年前 3時間目	授業(書道)	高2女子。空き時間、気分がすぐれない生徒がいたため、保健室へ連れて行ったが意識がなくなる。その後、呼吸停止。すぐに人口呼吸を行い、教務主任を呼ぶが来ず(担任は救急車を手配中)。15分から20分後に救急隊到着(その間、再度呼吸停止、人口呼吸)。結果、

			過呼吸だったが、意識がない時間が多かったので点滴しても3時間位意識が戻らず死ぬかと思って怖かった。空いている教師が若手3人だけで対応。養護教諭不在であった。
62	4月上旬	遊びの指導中	校庭で自由に遊んでいた。新1年生。まだまだ落ち着かない様子で、動きの把握もしながら観察していた。他の児童と関わっている特に、一人の児童がもともと高いところが好きな子どもだったため、柵を乗り越え校外へ出てしまった。車の往来がある道路ではあったが、幸いにも事故はなく生徒の保護ができた。やはり目を離してはいけないと学年で再確認した。
63	5月	保育中	一人は、初めての集団生活で少ししつこい児童に興味があり、もう一人は多動性の児童で、2日連続で多動性の児童がもう一人の児童を咬む。すぐに咬まれた児童の家庭に連絡したが、祖母が非常に怒っていた。すぐに謝罪に行き保育の目的や内容、子どもの様子を伝えると理解してもらえた。
64		保育中	泡を吹いて白目になり倒れる。救急車で病院へ搬送。診断は熱性痙攣であった。
65		卒業アルバム 個人写真撮影 中・渡り廊下	小学校6年生の男子児童同士が喧嘩となった。一人が興奮して体育館と校舎をつなぐ渡り廊下の手すりに、隣の図書館の窓から飛び移ろうとしたため、他のクラスの教員と気持ちが落ち着くように声かけし、気持ちが落ち着くのを待った。無事だったためほっとしたが、図書館の窓は閉めるようになった。
66	5月 午前中	休み時間	重度のピーナッツアレルギーの児童が在籍(2年生)。年度当初の全校朝会でそのような児童がいることを全児童に伝えた。学校行事や遠足などにピーナッツを持ってこないことやピーナッツ成分を含むものは持ってこないという約束をし、ある程度徹底できていた。しかし、ある日ある児童のポケットの中にピーナッツを含むお菓子の袋が出てきた。至急全校で対応したが、各児童の家庭での生活まで制限はできないため、対応の限界を感じた事例であった。
67	4月 午前中	授業中	授業中、プリントを配布した時に発生。前の児童が後ろの児童にプリントを渡す時にプリントの角が後ろ児童の目に入ってしまった。大きな怪我にはならなかつ

			たが、目に傷がついてしまった。渡す時の約束で「はい、どうぞ」、「ありがとう」を言って丁寧に渡すことになっていたが、元気な1年生だったためかそのような渡し方になってしまった。小さい児童は指導の徹底が難しい部分もあるので、指導法について考えさせられた事例であった。
68		給食中 知的障害 高1男子	給食に出た白玉をのどに詰まらせる。コの字型に机が並んでおり、向かい側の教員が気づき、男子生徒の隣にいた私に異変を知らせる。背中を強くたたき、白玉を吐き出させる。その後は、キッチンはさみを使って小さく切って食べさせるようにした。
69	病棟から学校へ行く準備の時間	病弱特別支援学校 重症心身 小4男子児童	病棟に入院している児童。歩けるが転んでも手が出せない。ベッドから降ろし、靴を履かせると学校に行けるのが嬉しくて小走り状態で移動。床のくぼみでつまずき、体をひねりながら後頭部を打ち、こぶを作る。児童はCTを撮り、3日間様子を見るため通学できず。病院から管理職名で、事故状況再発防止策を記したヒヤリ・ハット報告書の提出を求められた。
70		休み時間	児童と教員が一緒にサッカーをしていた際に、教員が蹴ったボールが近くにいた女子児童の顔面に当たってしまい、そのまま後方に倒れてしまった。その後、すぐに起き上がり、特に問題とはならなかった。
71	4月	宿泊学習	宿泊する部屋の外が固いタイルになっているホテルにて、部屋から出た際に足を滑らせ段差に後頭部を打ちつけた。その後、病院に連れて行き、MRI等の検査を受けたが特に異常はなかった。
72	5月 午後5時頃	部活動(卓球)	ボールが隣の台の方へ転がってしまい、取りに行ったら隣の台でプレーしていた生徒が予想外の行動をしたため、ラケットを取りに行ったら隣の台でプレーしていた生徒の顔面に当たった。顔面を冷やし、養護教諭に相談。そのまま様子を見た後、家庭に連絡し帰宅させる。事故以前もプレー中にはボールを取りにいかないように指導していたが、再度繰り返し指導している。
73	5月 午前中	授業	体育祭の練習中。台風の目という競技の練習中発生。横にした棒を4,5人で持ってカラーコーンの周りを回って戻ってくる途中に、一人が転び棒に頭がぶつかり意識がなくなる。すぐにAEDを用意し、救急車を呼ぶ。

			救急隊がすぐに来たが、AED 使用しなかった。検査の結果、特に異常はなかった。ルール変更を行った。
74	5月上旬 10時頃	運動会の練習 中	全校で大玉送りをしている際、勢いよく送られてきた大玉が、一人の児童に直撃した。児童は吹き飛ばされ、頭部を強打し、意識はあったが気分が悪いということですのですぐに病院へ。幸いにも異常はなかった。
75	7月中旬 午前中	夏休み 林間学校	細い林道を歩いている際、雨で視界が悪く足元もぬかるんでいたため、足を滑らせて滑落寸前に。たまたすぐ下に受け皿になるような部分があり、そこに落ちたため、すぐに引き上げられた。
76	28年前 16時頃	部活動（中学 校）	ソフトテニスの練習中。ソフトテニスボールが耳にあたり、「耳が痛い」と言う。ソフトボールは柔らかいので、耳に当たって戻るときに鼓膜が破れることがあると聞いていたので、そのための痛みを考えた。生徒の家に連絡したが病院に連れていけないとのことで、生徒の行きつけの耳鼻科に私が連れて行く。特に鼓膜に異常はなく安心する。その後、生徒を家に送り、父親に状況を説明した。
78	5・6年前	授業	てんかんの持病を持った女子児童。急に椅子から倒れ、硬直状態となる。すぐに養護教諭が駆けつけて対応し、無事正常に戻る。なるべく友人と行動を共に行動させるよう指導。
79		部活動	大会に向かうバス。一人の生徒が突然白目になり、泡をふく。引率は顧問一人で、顧問と生徒は救急車で病院へ。残りの生徒だけで大会に参加する。顧問は後から合流した。
80	6月ごろ	授業中（体育）	小学校2年生男子児童。校舎やプールが新しくなったばかりで、プールサイドが滑りやすかった。準備運動後、シャワーから出たところで足を滑らせて後ろに転倒し、意識を失う。すぐに心臓マッサージで2回押したら意識が戻る。同時に別の職員が職員室へ連絡。管理職の判断で救急車は呼ばなかった。保護者に連絡し、病院へ連れて行ってもらった。検査の結果、特に異常なし。その後、プールサイドに人工芝のマットを敷いた。
81	5・6年前 11時半頃	マラソン大会	マラソン大会の開催中、10 kmを走り終えた生徒が倒れた。意識もなく、AED を使用し蘇生。救急隊に渡し、

			ドクターヘリで搬送。無事であった。その年より、養護教諭が AED を用意しなければマラソン大会を開催すべきでないとのことで、初めて用意した時であった。
--	--	--	---

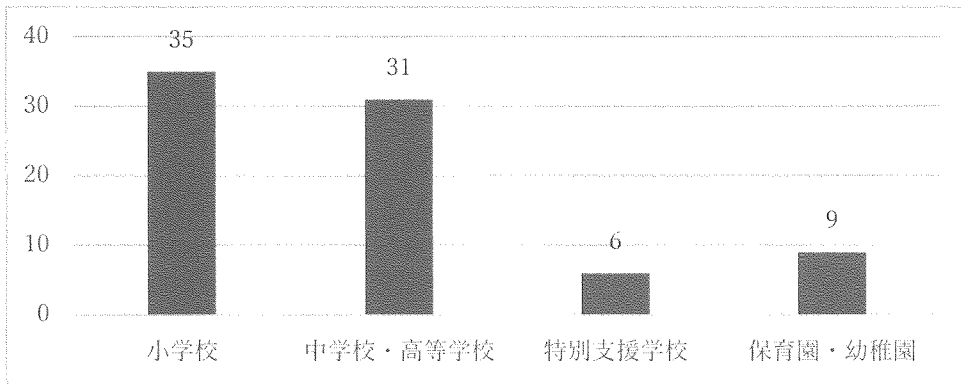


図 1. 学校別における事例件数

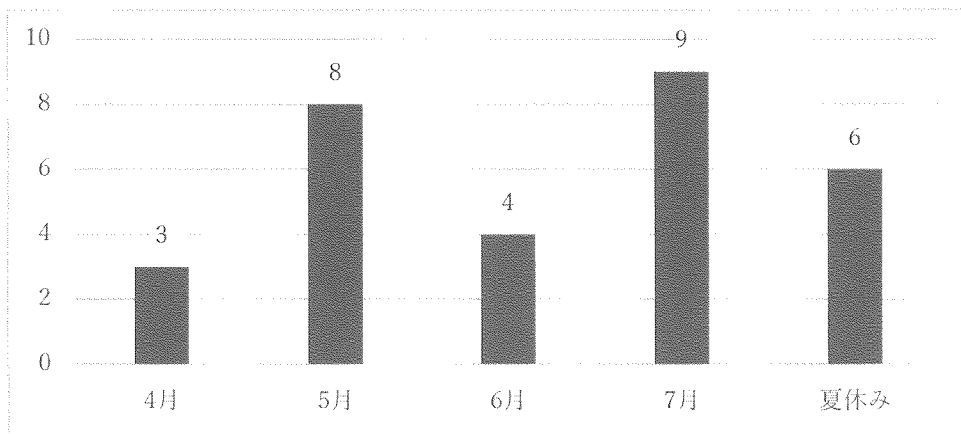


図 2. 発生時期別事例件数

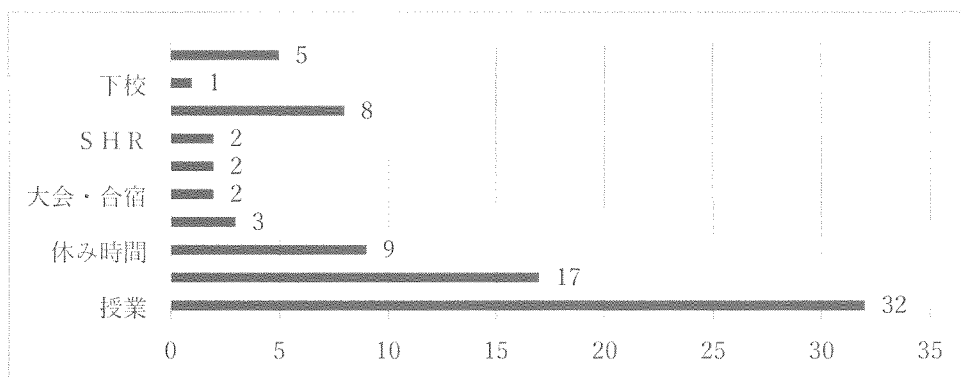


図 3. 時間帯別における事例件数

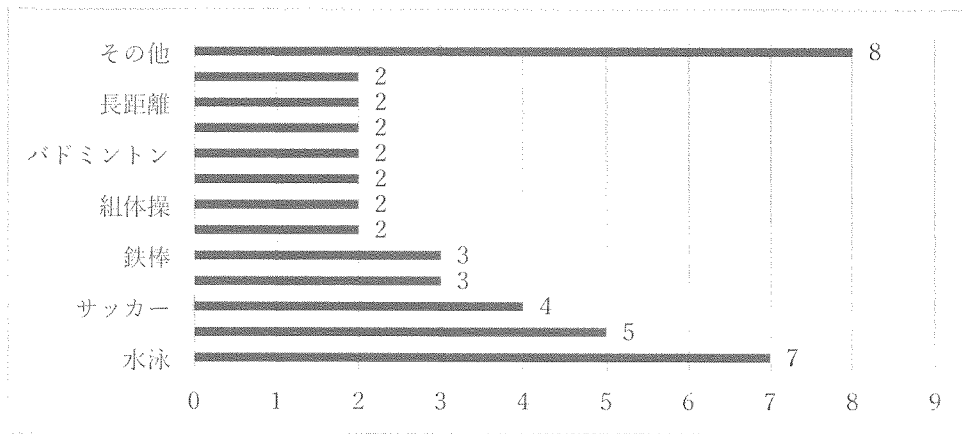


図4. 種目別事例件数

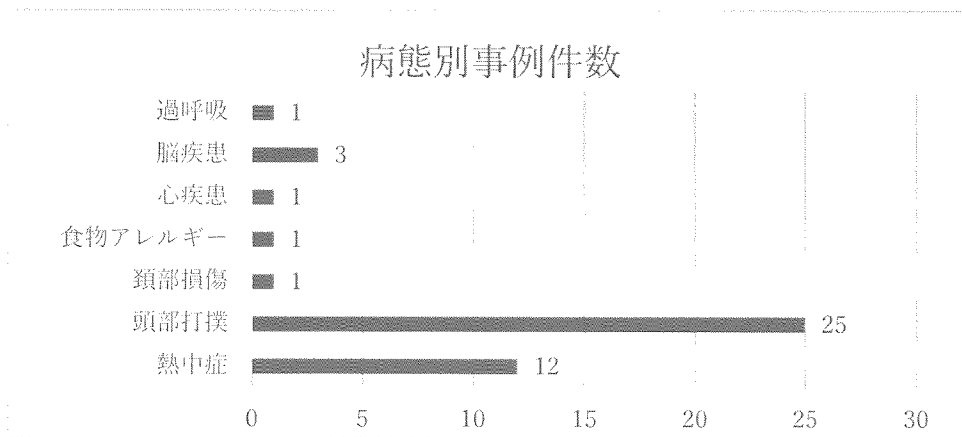


図5. 病態別事例件数